

2011. 6. 23. 佐藤真穂さんよりのメール

全国保育問題研究会の仲間の皆様、こんにちは。

私は佐藤真穂です。仙台保問研で10年お世話になり、結婚を機に南三陸町に来ました。今は保育士をしておりませんが、4才と0才の子どもの子育てを通して町の保育者の皆さんと出会って来ました。

この度の震災では沢山の厚い思いを寄せて頂き有り難うございました。

とても力強く励まされました。

我が家は歌津の高台にあり家族も無事でした。しかし間近な葦の浜も津波で破壊され、家を流された近所の4世帯の人たちがうちに避難し共同生活をしていました。震災直後は水電気ガスがなく、杉っぱを拾い薪で釜のご飯を炊いたり、井戸のある家に飲み水をもらいに行ったり、川の水で洗濯をしたり、畑に穴を掘ってトイレをしたり、携帯もつながらず、ラジオのみの情報源に皆で耳をすましました。身近な人の安否が分からず、泥だらけになって探している人もいました。一緒に暮らした皆で支えあって乗り切った感じです。その後、物資が届くようになり食べ物やストーブ、ガスボンベなどに困らなくなりました。ホッとして有り難かったです。

うちの義父が葦の浜の区長なので物質配給の基地として毎日分け方作業をしました。もともと静かだった家が朝から晩まで人が出入りするようになりまるで自分の家ではないようでした。ここにある顔を確認にくるように次々人がやってきて、それが情報交換でもありました。あの瓦礫の中から来ると、見慣れた風景の残るここでホッとする気持ちがよく分かります。

途中子どもの病気や0才の離乳食の衛生面、上の子のストレス様子が悩み、4月は仙台の実家に3週間滞在してきました。仙台では子どもの気分転換にはなりましたが、私自身は、街の賑わいと被災地とのギャップに虚しさを感じるが多かったです。電気の復旧を機に5月頭から歌津に戻ってきました。水はまだ出ず給水車のタンクにもらいにいきます。買い物は車で50分位行けば何でも買えるし移動販売や個人宅配も利用できラクになりました。

そんな中おかげさまで、6月からついに町立保育所3園が再開されました。建物がなくなってしまった戸倉、荒戸、子育て支援センターのたけのこクラブの先生方は、他園に異動されたそうです。

うちでも先週から子どもが伊里前保育所に通い始めました悦

直前までボランティアや自衛隊の方々が入り、洗浄・清掃や整備をしてくれたそうです。水が入り泥に汚れたという室内はきちんと清潔に復元され、浸水したと思えないほどでした。全て流された人たちの為皆に布団なども全部支給されました。

沢山の人が、子ども達のことを思っでご尽力下さったことがひしひしと伝わってきます。

入所式の挨拶で小竹所長が「北海道から沖縄まで全国の沢山の方々からの支援により、保育所を再開することが出来ました。」と涙で声を詰まらせながらお話されていました。先生方も自宅を流されたり身内の安否も分からない中、震災直後から避難所に詰めて役場職員としてずっと動き続けていて、頭にタオルをまいて対策本部で奔走している姿を見聞き

していました。

だからこそ、こうして保育現場に戻ってくることにいろんな思いがあったことと思います。

全国の沢山の支援を頂き再スタートできることの有り難さをつくづく感謝しています。
本当にありがとうございました。

子ども達の顔ぶれは引っ越しなどで、やはり減りました。この町がこれからどうなっていくのか、見通しがなかなか見えない中で、ここに留まる人、離れる人、それぞれに苦しみがあると思います。ですが、保育所の再開は大きな一歩で、ここから続く未来がある、と希望を感じます。

保育所でも模索しながら一つひとつ進めているのが伝わってきます。まだまだ道のりは長く、町は何もありません。以前の穏やかで海山に囲まれた小さな町が脳裏に焼き付いています。私はたった4年しか住んでおりませんが居心地の良い住みやすい町でした。

私も自分の出来ることを探しながら皆とつながって少しずつ前に進みたいと思います。

皆様には心から感謝しています。有り難うございました。

メールにて失礼します。いつの日かお会い出来る日を楽しみにしています。